

第28回技工研究談話会レポート

46期生 貞松寛観

今回の談話会はお二人の先生方に講演いただきました。

最初は41期の横山先生によるCAD/CAM技工についての講演。

勤務されているddo(デンテックインターナショナル)の関連会社。CAD/CAMを使用したジルコニアコーピングの作製に特化している)で使用されている3MLavaシステムについて、そのワークフロー、当該システムの機械的優位性について症例写真等も交え詳細に解説いただきました。他社製品との差異は専門誌を参照いただくとして、ジルコニアが臨床導入されて以降CAD/CAMの普及・進化は著しく、今後の歯科技工の省力化・効率化に大きく貢献する一方で、歯科技工士の存在価値を疑問視する向きもありますが、テクノロジーの発達に伴いドクター、患者さんの審美的要求は以前にも増して高まり、歯科技工士にはさらに高度な技術・知識・経験が求められていくだろうと思いました。



同時にddoはそのほとんどが女性スタッフだということも驚きでした。一般に過酷な労働環境で離職率の高い歯科技工の世界にあって、女性が継続して歯科医療に携わることのできるひとつの貴重なモデルケースとして将来歯科技工士を目指す多くの女性にとって大いに励みになったのではないかと思います。



もう一つの講演は阪大歯学部附属病院総合技工室（いわゆる研修科）の常藤先生により研修科のカリキュラム、現状と今後の課題について論じられました。

大学病院内にあることでドクターと密接なコミュニケーションがとれ、多彩な症例に巡りあえる素晴らしい環境だと思いました。実践と研究を同時に経験できる、卒後の選択肢のひとつとして在校生の参考になったのではないかと思います。



両講演を拝聴して、

①CAD/CAM技術は日々進歩しているが、歯科技工士の必要性は不変である

②しかしながらユーザー（ドクター、患者さん）に選んでもらうあるいは満足してもらうための自分の「売り」（セールスポイント）は何なのか考え、自身にさらなる価値を付与するために日々研鑽を積まなければならない

③歯科技工士の確保が将来的に難しくなる中、女性技工士の必要性は高まるであろう、しかし定着してもらうための環境整備が急務であるということを感じました。

昨今の材料や技術の進歩は情報過多の状況をもたらし、ドクターサイドでも混乱を引き起こしていると聞き及びます。高度なテクニック以外にも、適切な情報提供ならびにコミュニケーションのとれる“コ・デンタルスタッフ”としての歯科技工士が求められていくでしょう。貴重な講演いただきまして誠にありがとうございました。